

設計開発における技術の 可視化/伝承の方法論

-技術可視化における問題点、技術の可視化の手法、技術の伝承・活用のポイント-

- 日 時● 2017年 8月4日(金) 10:30~16:30
- 会 場● 東京・麹町『企業研究会セミナールーム』
- 講 師● 株式会社プリベクト 代表取締役 北山 一真 氏

◆開催にあたって

多くの企業では多数のベテラン技術者が定年退職を迎えようとしています。そのため、ベテラン技術者のノウハウを可視化し、伝承・活用することが重要な経営課題となっています。

しかし実際には『属人的な設計から脱却できない』『ベテランのノウハウを共有できない』といった問題が発生しており、対応が求められています。また、多忙な技術者には技術伝承の取り組みに割く時間も限られており、効率的な取り組みを行わねばなりません。

さらにノウハウは実際に案件で適用して初めて効果が生まれるため、設計マニュアルを整備するのみならず、設計マニュアル活用・改訂の仕組みも重要となります。

そこで本講義では、技術者が現業を持ちながら、限り有る時間でノウハウの可視化を行うためのポイントを順次解説します。最後にノウハウの可視化・活用・改訂におけるポイントを解説致します。

《詳細は裏面をご覧ください》

●受講料● 1名(税・昼食・資料代含む)

正会員	43,200円	本体価格 40,000円
一般	47,520円	本体価格 44,000円

●申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてに FAX いただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日(開催日1週間~10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

●申込書をFAXにてご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

●よくあるご質問(FAQ)については当会ホームページでご確認いただけます。

[TOP] → [公開セミナー] → [よくあるご質問]

●お申込み後のキャンセルは原則としてお受けいたしかねますので、お申込者をご出席できない場合には、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。ご了承ください。

一般社団法人企業研究会

担当：福田 E-mail: fukuda@bri.or.jp

〒102-0083

東京都千代田区麹町 5-7-2 麹町 M-SQUARE 2F

TEL 03-5215-3516 FAX 03-5215-0951

一般社団法人企業研究会 セミナー事務局宛 FAX 03-5215-0951

*当会ホームページ (<https://www.bri.or.jp>) からもお申込みいただけます。

171432-0103(※)		2017.8.4	
申込書 設計開発における技術の可視化/伝承の方法論			
会社名	フリガナ		
住所	〒		
TEL		FAX	
ご氏名	フリガナ	所属 役職	
E-mail			
ご氏名	フリガナ	所属 役職	
E-mail			

*お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡、および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

設計開発における技術の可視化/伝承の方法論

株式会社プリベクト 代表取締役 北山 一真 氏

【経歴】IT系コンサルティング会社、製造業系コンサルティング会社ディレクターを経て、2010年にプリベクトを設立。競争力ある製品/もうかる製品の実現のため、設計と原価の融合をコンセプトにした企業変革に取り組む。業務改革の企画/実行、IT導入まで一貫して企業変革の実現を支援。設計高度化、設計ナレッジマネジメント、製品開発マネジメント、原価企画、原価見積、開発購買、ライフサイクルコストニング、意思決定管理会計、BOM、3D-CAD、PLMなどのコンサルティングを手がける。

【著書・執筆】『赤字製品をやめたら、もっと赤字が増えた！-儲かる製品を実現するコストマネジメント-』（日刊工業新聞社）、『プロフィットブル・デザイン iPhoneがもうかる本当の理由』（日経BP社）

●プログラム●

10:30

I. 技術伝承の難しさ

1. 技術とは何か？可視化するとはどういうことか？
2. 技術やノウハウを可視化するのはなぜ難しいのか？
3. ベテランに設計マニュアルを書いてもらうことが技術伝承なのか？

II. 技術の可視化

1. 様々な視点で設計や技術を可視化する
 - a. 業務フローの可視化
 - b. 設計フローの可視化
 - c. 技術諸元の可視化
 - d. 設計ノウハウの可視化
2. 技術の整備方法
 - a. 文書形式の整備方法
 - b. 表形式の整備方法
3. 忙しい技術者がどのように技術の可視化をおこなうのか？

休憩

III. 技術の伝承と活用

1. 設計マニュアルを整備しても活用できない理由
2. ナレッジの活用のポイント
3. ナレッジの改訂のポイント
4. 設計高度化のためのノウハウ活用方法

IV. ナレッジマネジメントシステムのポイント

16:30

※講師とご同業の方は受講をお受けしかねる場合がございます。予めご了承ください。